



NEWS LETTER IPPS JAPAN

International Plant Propagators' Society

国際植物増殖者会議日本支部

ホームページ : <http://www.ippsjapan.org>

2009.1
No.36

お問合せ先・事務局
IPPS 日本支部事務幹事：南出幹生
〒513-0801
三重県鈴鹿市神戸 7-8-5 南出(株)内
TEL 059-382-0040 FAX 059-383-6526
E-mail : head@minamidekk.co.jp

新年明けましておめでとうございます。

会長 内田 恵介



皆様よい年をお迎えのことと存じます。

昨年から続く不況の波がより一層強くなり、厳しい一年となることが予測されますが、会員の皆さんもそれぞれ懸命なご努力をされていることと思います。私自身、生産者の一人として、かつて経験したことの無い難しい状況に直面し、これから大きく舵を切り、方向を転換しようと模索しているところです。

このような状況の中、昨年の茨城大会総会において、会長という大役を引き受けることとなり、驚くと共に、その重責に身の引き締まる思いをしております。

これまでの私は、海外からの大会参加者のお世話をするなど、裏方的な役割が主で、先頭に立っての旗振り役などは想像もつかないことでした。しかし、お引き受けした以上、皆様のご協力ご指導をいただきながら、精一杯努力して、職責を果たしたいと思っております。

私たち運営メンバーに与えられた使命は、仁藤前会長が掲げられた「活性化案」を実行に移すことだと考えます。そして、そのために必要不可欠なことは、会員一人ひとりの積極的なかかわりだと思えます。かく言う私自身も、本会に参加した当初はあまり積極的ではありませんでしたが、かかわりが深くなるにつれ、多くの専門的知識や情報を得ることが出来ました。そして、それ以上に、大きな財産となったものは各分野で活躍する多くのメンバーと強い繋がりを持てたことだと喜んでおります。

会員の皆さんも IPPS-J 活動に積極的に参加して、良き仲間に出会い、自らメリットを創り出し、それをフルに活かしていただくことを切に願っております。

今年の滋賀大会は琵琶湖畔という、大変ロケーションの良い所での開催です。

まずは本大会が充実したものとなるよう、一人でも多くのご参加をお願い致します。



ニュースレターへの原稿大募集

会員相互の情報交換の場として、このニュースレターをご利用下さい。気軽に投稿して頂ければ幸いです。今回よりカラー印刷になりました。宣伝効果も絶大です。ご投稿を心からお待ちいたしています。原稿は原稿用紙への手書き文章は勿論 CD でも、Eメールでも受け付けます。写真も大歓迎です。原稿の内容は1ページ当たり1,000字+写真2~3枚です。必ず顔写真をお忘れなく。

受付窓口

〒514-2293

三重県津市高野尾町 1868-3

(株) 赤塚植物園 藤森 宛

TEL 059-230-1234

FAX 059-230-7880

E-mail ffctf@akatsuka.gr.jp

第 15 回 IPSS-J 茨城大会の概要

筑波大学 弦間 洋



第 15 回 IPSS 日本支部茨城大会は、去る 10 月 18, 19 日の両日にわたって茨城県つくば市のエポカルつくば国際会議場での講演会・研究発表会・情報交換会・総会・懇親会、つづいて県内、とくに新線つくばエクスプレスに沿った県南を中心とした見学会のプログラムで行われた。

参加人数は予約・当日参加を含め、大会が 50 名、懇親会が 39 名、見学会が 40 名であり、それなりに盛会であった。特別講演の日本ブルーベリー協会副会長玉田孝人氏による「ブルーベリーの魅力—観る楽しみ、育てる楽しみ、食べる楽しみ、健康になれる喜び—を探る」が、栽培・育種から食品機能性に至る広範な話題を提供していただきながら、カラフルなスライドの紹介とともに聴衆を魅了した。近著の「ブルーベリー生産の基礎」に示された資料を使った懇切丁寧な話題提供と、海外産果実との競合によって国内市場に果実そのものはあっても産地がないような事態を招くようなことはしたくないとの決意表明には、氏の長年にわたる研究・調査の実績に裏付けされた我が国の第一人者としての自負が感じられた。



一般講演は 10 件の研究発表が行われ、活発な質疑応答で会場を沸かせた。森林総研の石井氏らは樹木の細胞壁

由来のキシロオリゴ糖が培養苗の成長促進、発根促進、芽分化促進に効果があることを「樹木の組織培養におけるキシロオリゴ糖の効果」と題して発表した。同所林木育種センターの坪村氏らは、スギ花粉症対策として開発された雄性不稔である‘爽春’が難発根性で大量増殖が難しいが、培養における光源に赤色光を用いると発根率が飛躍的に向上することを見出した。今後、年間 2 万本の生産が目標とされていて、本手法が期待される。宮崎大の鉄村氏らによって「果樹マイクロ挿し穂の in vitro での根系発達」と題する興味深い発表があった。すなわち、シロイヌナズナの主根を波形状にすると側根形成が旺盛となることからヒントを得て、発根培地にバーミキュライトを混合したゲランガムで固化した培地を用いると、鉢上げが困難なカキ、クリ、クルミなどで成功率向上を認め、新規知見として今後有用されると思われる。筑波大の鱈淵氏らは、フェイジョアの挿し穂の採取部位が樹冠上部と基部で異なると発根率も異なることから樹冠上部には発根抑制物質が存在し、不定根形成を制御している可能性を示唆した。茨城県農総センター生物工学研究所の鈴木氏らはケイトウの試験管内開花に及ぼす種々の要因を解析し、インビトロフラワーに相応しい品種として‘八千代’・‘金峰’・‘ストロベリー’・‘マンゴ’を選定し、1/8MS 培地上で 16 時間日長（長日）を 30 日間処理して、その後 10 時間日長（短日）に移したところ、ボリューム感のある開花個体を得ている。農研機構果樹研の山口氏らは、我が国在来モノの休眠・発芽期の特性を調査し、品種間に葉芽の休眠覚醒、開花時期、新根伸長に大きな差異があることを示した。これらの資料は台木育成のうえで大いに利用される。明治大の岩崎氏らはブルーベリー果粒の種子数と成熟との関係について、重回帰分析を試み含有種子数が成熟日数に影響することを明かにした。含有種子

数は自家受粉に比べ他家受粉で多くなる傾向があるため、ブルーベリーの結実管理の重要な指針となる。筑波大農林センターの吉田氏は、同センターで行っているサクラソウコレクションの保存・維持の市民との共同活動について紹介した。望月蘭園の望月氏は、パフィオペディラム・モーディー系グリーンの魅力とその作出の歴史を概説し、翌日の見学会でも育種の真髄について熱弁された。北海道林試の錦織氏は、官民が共同で行っている組織培養によるクローン苗受託生産システムについて紹介し、育種から増殖に至る期間の短縮化に寄与し、苗の消費拡大を目指していると報告した。

その後、参加者相互に自身が携わっている植物増殖について紹介する情報交換会があり、同会議場内のフランス料理「エスポール」で行われた懇親会とともに有益な時間となった。懇親会では次期開催地の滋賀県へのIPPSフラッグと木槌の引き継ぎがあり、参加者から期待をこめた盛大な拍手があった。

見学は小春日和のなか、つくばセンターからバスで常磐道を北上して、ブルーベリー生産で著名な「大関ナーセリー」を視察、オーナーの大関氏の熱心な説明とブルーベリー苗のお土産、ブルーベリーネクターの歓待を受けた。さらに北関東自動車道から茨城町のパフィオペディラムの育種・生産・販売で

有名な「望月蘭園」見学の後、涸沼湖畔では望月氏と奥様はじめ皆様のご協力によるホームパーティー形式の昼食、常陸牛のバーベキューをビール付きでいただいた。すっかりリラックスした後、常磐道を南下して圏央道から約640種類の国内産・外国産の樹木が集められている「森林総合研究所樹木園」へ回り、石井氏による案内とヒノキ樹皮でできた栞をお土産にいただき、次にさらに常磐道を南下して柏インターから千葉大学環境健康フィールド科学センター「大規模草本苗生産システム」を見学した。同システムは大学としては珍しい苗の商業生産を行うと同時に新商品開発と生産技術開発と成果発表・施設公開を行っている。以上、草本性苗から木本性苗・樹木に至る多岐多様な見学地を巡り、参加者は植物増殖に関する知見を得るとともに親睦を深め、つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス」駅から帰途につかれた。

大会は充分なおもてなしができたか不明であるが、大過なく終了し、次期大会にその役割を引き継ぐことができた。偏にシークアンドシェアのもっとのもと、皆様のご協力があったればこそと実行委員会一同重ねて厚く御礼申し上げる。



大関ナーセリーの見学



涸沼自然園にて昼食



望月蘭園の見学



千葉大学環境健康フィールド科学センター



ハナビラタケの機能性

(株) 王 健 代表取締役 柴田 勝

1 ハナビラタケとは？

学名を、*Sparassis crispa* と言う。ハナビラタケ科ハナビラタケ属に入る、茎の無いサンゴ状のキノコである。カラマツやモミの根元に発生するため、自然発生は少なく、そのため「幻のキノコ」と呼ばれた。最近、空調による周年栽培が確立され、コストの低減、栽培期間の短縮に成功した。一方、研究開発も盛んに行われ、ユニチカ、かつらぎ産業が牽引して、その機能性が明らかになって来た。以下、私に関係した実験結果を紹介したい。

2 驚くべき機能性

β -グルカン〈高分子〉が多量に含まれることから、免疫力の向上、抗ガン作用は常識になっている。しかし、最近、他の物質〈低分子〉による幾つかの機能性が認められてきた。多分、ペプチドと予想されるが、完全な同定は行っていない。

1. 血糖値降下作用

動物実験、ヒトモニター試験（糖負荷試験）から、インスリンの分泌促進効果が認められた。これにより、多くの糖尿病患者の血糖値改善に貢献している。〈愛知学院大学、三重大学、鈴鹿医療科学大学と共同〉

2. 血圧上昇抑制及び血流量改善作用

病態動物（SHR-SP）を用いた実験から、血圧の降下と血流改善効果が認められた。これより、生活習慣病の予防効果が示唆された。特に、後者は脳卒中の予防効果が認められるため、延命効果が期待される。〈武庫川女子大学、鈴鹿医療科学大学と共同〉

3. メタボ関係

ラットの実験から、腎周囲脂肪、副睾丸脂肪

に有意な減少が認められた。勿論、体重の減少も認められ、メタボ対策のサプリメントとして推奨出来る。

〈名古屋女子大学、鈴鹿医療科学大学と共同〉

3 まとめ

従来、キノコに含まれる高分子の β -グルカンは、抗腫瘍効果、免疫力の向上に影響することが証明されているが、ここでは、低分子のペプチド等が、生活習慣病の予防に効果的であることが証明された。「キノコパワー」は、この外、繊維分による腸内調整作用〈便秘解消、解毒〉、美白効果（チロシナーゼ活性阻害）も考え合わせると、食品、サプリメントとして大いに注目する必要がある。

<謝辞>

ハナビラタケの実験に必要な熱処理されたハナビラタケ微粉末（4 μ m）の提供を頂いた、(株)かつらぎ産業に対し心から御礼申し上げる。



サンゴ状のキノコ「ハナビラタケ」

特別寄稿

ブルーベリーを家庭で上手に
育てるポイント

日本ブルーベリー協会 副会長 玉田 孝人



はじめに

ブルーベリーは、花・葉・果実を愛でる楽しみ、庭植えや鉢植えで育てる楽しみ、生食しても、また加工品でも豊かな風味を楽しめる魅力を持っています。さらには、果実が「目にいい」、「高い抗酸化能」をキーワードとする機能性成分に富んでいることから、健康になれる喜びがあります。

このようなブルーベリーの魅力が生産者の心を強く引きつけ、また、消費者の志向に合致したことから、日本のブルーベリー生産と果実の消費が拡大してきたと考えられます。

このような考え方から、先に（2008年10月18日）、つくば市で開催された第15回IPPS日本支部茨城大会において、「ブルーベリーの魅力——観る楽しみ、育てる楽しみ、食べる楽しみ、健康になれる喜び——を探る」、と題して講演させていただきました。ここでは、講演要旨に大幅に手を加えて、家庭で育て、大きくておいしい果実生産のために必要なポイントを中心に紹介します。なお、ブルーベリーの分類、日本における栽培状況についても簡単に紹介します。

1. ブルーベリーの分類およびタイプ

ブルーベリー（Blueberries）は、植物学的には、ツツジ科（Ericaceae）スノキ属（Vaccinium）シアノカス節（Cyanococcus）に分類される、北アメリカ原産の落葉性あるいは常緑性の低木性（または半高木性）の植物です。

果樹園芸学上は、栽培ブルーベリーと野生（ワイルド）ブルーベリーに大別されます。栽培ブルーベリーは経済活動を目的として栽培されるもので、ノーザンハイブッシュ（Northern highbush blueberry, *Vaccinium corymbosum* L.）、サザンハイブッシュブルーベリー（Southern highbush blueberry）、ハーフハイブッシュ（Half-high highbush blueberry）、およびラビットアイ（Rabbiteye blueberry, *V. virgatum* Aiton）の4つのタイプ（種類）からなります。それぞれ樹、果実、根の特性が異なり、成長に好適な土壌条件が異なります。（表1）

一方、野生（ワイルド）のブルーベリーは、アメリカおよびカナダ両国に自生するローブッシュ

表1 栽培ブルーベリーの4つのタイプの栽培上重要な特性

ブルーベリーの タイプ	樹						果実					根・土壌条件			
	樹形	樹高 (m)	樹勢	枝の 伸長	低温 要求性	耐寒 性	大き さ	品質	貯蔵 性	収量	成熟期	根	水分	耐乾 性	生育好 適
ノーザン ハイブッシュ	中型	1～ 2.0	中	中	多	強	大	優	良	多	6月上旬～ 7月下旬	ひげ根 浅根性大	最も 好む	弱い	4.3～ 4.8
サザン ハイブッシュ	小型	1前後	弱い	弱い	少	弱い	中	優	良	中～ 少	6月中旬～ 7月上旬	ひげ根 浅根性中	好む	中	4.3～ 4.8
ハーフ ハイブッシュ	小型	1前後	弱い	弱い	多	強	小	優	良	中～ 少	6月中旬～ 7月上旬	ひげ根 浅根性中	好む	中	4.3～ 4.8
ラビットアイ	大型	1.5～ 3.0	強い	強い	中	弱い	大～ 中	優	優	極多	7月上旬～ 9月上旬	ひげ根 浅根性中	好む	強い	4.3～ 5.3
他の果樹との 相違点	株もとから強い発育枝，地下をはってシュートが発生してブッシュ（株）状になる 樹形，整枝・剪定が大きく異なる。						収穫期は，ノーザンハイブッシュ，ハーフハイブッシュおよびサザンハイブッシュでは主に梅雨期，ラビットアイでは盛夏から晩夏。					根はひげ根で浅根性。乾燥に弱く，強酸性を好む。そのため，生育に適した土壌条件および土壌管理法が大きく異なる。			

(Lowbush blueberry の 別 名。V.angustifolium Michaux と V.myrtilloides Aiton の 2 種類) です。収穫果は直ちに冷凍加工されます。冷凍果は、両国で利用されるほか世界各国に輸出され、各種加工品の原料として利用されています。



ブルーベリー樹の姿
株元から数本の主軸枝が伸長し
樹高は1,5~2,0mの低木

2. 日本におけるブルーベリー栽培

日本にブルーベリーが初めて導入されたのは(公立機関)1951年でした。当時の農林省北海道農試がアメリカ・マサチューセッツ州立農試から導入、試作したのが始まりです。

しかし、普及の道のりは苦難の連続で、全国の栽培面積が10haになったのは導入30年後の1981年であり、経済栽培が盛んになりはじめたのは1980年の中期以降のことでした。

栽培が全国に広がり、有望な果樹として注目されるようになったのは、1990年代も半ばになり果実の機能性が評価されてからのことでした。今日では、小果樹の優等生といわれるまでに発展しています。

(1) 栽培地域

ブルーベリーは、タイプおよび品種を選択すると、全国各地で栽培できます。

ノーザンハイブッシュおよびハーフハイハイブッシュは低温要求量が多く、耐寒性が強いいため、年平均気温が8℃以上、冬季の最低極温が-20℃以上の所が適地です。北海道、東北、関東甲信越、北陸から九州中部まで広い地域で栽培されています。

サザンハイブッシュおよびラビットアイは年平均気温が13℃以上、冬季の最低極温が-10℃以上の所が適地です。両タイプはハイブッシュと比較して低温要求量が少なく耐寒性が弱いいため、東北南部以南から九州南部にかけて、さらに沖縄でも栽培されています。

(2) 栽培面積および生産量

2008年、全国の栽培面積はおおよそ850ha、生産量は約2,000tに達していると推定されます。消費量は(2005年)は国内産および海外産(輸入もの)を合わせて18,000tでした。内訳は、国内産に加えて、海外産の生果が1,500t、海外産の冷凍果は(主に前述のワイルドブルーベリー。クランベリーも含む)が15,000tくらいになっています。



都市近郊に見られるブルーベリー摘み取り園

3. 家庭で上手に育てるポイント

庭先やベランダに、ブルーベリー樹が数本(数鉢)でもあると、前述したようなブルーベリーの魅力の全てを堪能することができます。自家産の果実は、正真正銘の「安全・安心で、新鮮でおいしく、その上健康によいブルーベリー」なはずです。次に、上手な育て方のポイントを挙げます。

(1) 品種選定

ポイントの第一は品種選定です。日本で栽培されている品種(カタログで紹介されているもの)は50以上もありますから、どのような品種を植え付けばよいのか、品種選定には苦労すると思います。

一般に次の6つの要因を検討します。品種カタログを見る上での注意点でもあります。

①成熟期の早晩(早生種、中生種、晩生種など)

- ②樹勢（樹型、新梢伸長の強弱）
- ③果実収量（多、中、少）
- ④品質〔果実の大きさ（大、中、小）、風味（糖、酸）、肉質、果柄痕の大小および乾湿など〕
- ⑤他の果実形質（日持ち性、貯蔵性）
- ⑥生態的特性（耐寒性、低温要求量の多少など）

（2）植え穴の準備

庭植え（黒ボク土）の場合、まず、幅が70～80cm、深さ50cmくらいの穴を掘り、次にピートモス50ℓ、腐葉土50ℓを、掘り上げた土とよく混合して埋め戻します。そうすると10cmくらいの高畝になります。一雨待って穴を落ち着かせてから植え付けます。穴の中心に湿らせたピートモス2ℓを入れ、苗木はポットからはずし、根鉢を解いて植え付けます。

鉢植えの場合2年生苗を、7～8号の鉢に鹿沼土とピートモスを混合(等量)して詰め、植え付けます。

ブルーベリーは代表的な好酸性植物です。樹の成長はpH 4.3～4.8の範囲で優れるため、その範囲以上にpHが高い場合には硫黄華を用いて調整します。

（3）栽培管理

ポイントの三つめは各種の栽培管理を適期に行うことです。多岐にわたる栽培技術のうち、樹の生長、果実品質を大きく左右するのは主に次の6つです。

1) 有機物マルチおよび除草

根は繊維根で浅根性です。そのため、有機物マルチを施して土壤の乾燥、地温の上昇および雑草の繁



ベランダでも楽しめるブルーベリーの鉢植え

茂を抑えて根の健全な成長を促すことが重要です。有機物は分解が遅く、肥料分の少ない木材チップ、バークなどがよく、樹の周囲半径（50cm）を15cm前後の厚さに被覆します。株元の雑草は抜き取りま

2) 灌 水

根は土壤の乾燥に弱く、成長期には灌水が必要です。庭植えの場合、灌水の目安は、成長期(4～10月)には、1日当たり、若木(栽植後3～5年生)では5ℓ、成木(栽植後6～7年以降の樹)では9ℓを、5日間隔で実施します。冬期の灌水はとくに必要としません。鉢植えの場合は、表面の土が乾いたら、冬期間でもタップリと灌水します。

3) 肥 料

ブルーベリーは代表的な好アンモニア性植物ですから、窒素肥料はアンモニア態窒素(NH₄-N)を施用します。硫安の施用が一般的です。

4) 結実管理

ブルーベリーは虫媒花で、訪花昆虫はミツバチが主体です。ブルーベリーは自家受粉よりも他家受粉によって結実率が高まり、果実は大きくなり成熟期が早まります。そのため同一園(場所)に異品種を



ブルーベリーの花

開花時期（関東南部）は4月上旬～5月上旬

植え付け（異品種の鉢を置く）ます。飛来する自然のハチが多ければ、開花数の80%以上が結実します。

5) 鳥害防除および病害虫防除

成熟期になるとスズメやムクドリなどが飛来します。成熟期間中、樹上に直接網を被せるだけでも防ぐことができます。網を被せず、小鳥の飛来を楽しむのも一興でしょうか。

また、ブルーベリーは、他の果樹と比較して病害虫による被害は少ないのが特徴です。家庭果樹として楽しむ場合、あるいは小面積の栽培では無農薬栽培も可能です。

6) 適期の収穫

果実の風味を味わうためには完熟果を収穫することです。ブルーベリー果実は果皮全体がブルーに着色する段階、いわゆる成熟過程に入ってから糖度が高まり、酸が減少して、風味が良くなります。収穫間隔が大事で、5～7日間隔とします。収穫期間は、同一品種・同一樹でも、3～4週間にも及びます。

収穫時期は梅雨から盛夏ですから、果実は品質劣化を抑えるためにできるだけ速やかに低温条件下に置きます。室温では4～5日しか持ちませんが、 $-0.6\sim 0^{\circ}\text{C}$ の低温下の冷蔵では、およそ2～3週間も貯蔵できます。冷凍（ -20°C 以下）した場合、10カ月後でも生果と同様に利用できるといわれています。



ブルーベリーの果実
成熟時期（関東南部）は、早生品種で6月上旬に始まり
晩生品種は7月下旬から始る。それぞれ3～4週間続く



おわりに

日本の果実生産は、かつての少品目・大量生産から多品目・少量生産の時代に移行したといわれて久しく時間が経ちました。今日、ブルーベリー生産の人気の高いのは、経済生産の面では多品目・少量生産時代の代表格であり、また、個性化時代に合致した「家庭でもたやすく育てられ、楽しむことができる」特徴によっていると考えられます。

I P P S 日本支部会員の皆さまは、植物生産が専門であり、栽培が得意の方々ばかりと思われます。今後、研究対象あるいは生産対象にブルーベリーを加えていただければ幸いです。さらに、庭に数本の樹を植えられ、「観る、育てる、味わう、健康になれるブルーベリーの魅力」を存分に享受いただくことを願っております。

第 16 回 I P P S 日本支部滋賀大会のご案内

“楽しい I P P S を目指して！”

I P P S 日本支部大会が 6 月に滋賀県で開催されることになりました。
講演も研究発表も交流会も懇親会も 1 年分の楽しい思い出を作れるような大会に
したいと思っています。

講演は、岐阜大学福井先生、フラワーオークションジャパン長岡さんをお願いし
ています。

内容は、お二方にお任せしておりますが、きっと I P P S の活性化につながるよ
うな元気の出る講演になること間違いありません。

研究発表、産地見学については、実行委員会で検討中です。



- とき 2009年6月27日(土)～28(日)
- ところ ピアザ淡海 (滋賀県立県民交流センター) 琵琶湖湖岸
- 1日目・・・会員紹介・講演・研究発表・総会・懇親会
- 2日目・・・見学・親睦ランチ



懇親会では、琵琶湖クルージング、フロア貸切の船上パーティーを計画しています。

大会の申し込み及び詳細についてのご案内は、追ってご送付いたします。

6月、日本列島のまんなかの琵琶湖でお会いしましょう。

(有)花街道 佐藤伸吾

会員紹介 コーナー

この度、(株)ハクサンの高臣映生社長に IPPS への新入会を勧め、快諾を得ました。ハクサンは世界各国から観葉植物、鉢花、種子、苗等を輸入販売している花卉園芸業界の総合商社です。また海外育種会社との品種開発や国内外による生産で、日本の園芸業界における存在感は多大です。

高臣社長が園芸に関わるようになったのは、1976年に三重県津市の(株)赤塚植物園に入社してからです。それまで2年間の派米農業研修で畜産を専攻していましたが、帰国後就職した赤塚植物園では営業部に所属し、園芸に関するあらゆる事を経験しました。園芸植物の市場出荷、小売店への卸販売、企業販促、生産者への苗販売のほか農場での生産、組織培養による大量増殖法の知識も得ました。特に貿易業務では欧州からの園芸植物の輸入を担当し、得意の英語を活かしてデンマークに数ヶ月間滞在し新品種の導入と普及に貢献しました。その時、高臣社長は赤塚植物園を創業した赤塚社長の考え方や実行力に感銘を受け、自分の独立を決意したといえます。

1981年に独立して三重県白山町に園芸種苗の輸入会社(株)白山貿易を設立し、1984年愛知県長久手町に名古屋事務所を開設しました。1988年に



株式会社ハクサン
代表取締役 高臣映生さん

は本社を長久手に移転し、赤塚植物園在職時にデンマークで知り合った友人たちと関連会社の(有)ジェー・アンド・エッチ・ジャパンやハクサンインターナショナル(株)を設立し、欧州の新品種を大量に日本へ導入しています。

1992年にはスリランカに100%出資会社の(株)セイロン・フォーリエッジを設立しました。恵まれた気候と豊富な労働力によって生産の大きな拠点となり、そこで育てた各種園芸植物の苗を欧州や日本に輸出しています。いまではスリランカの優良企業として現地で高い評価を受けているそうです。

ハクサンが全国に名をはせたのは、1999年に

トヨタ自動車との合弁で(株)トヨタフローリテックを青森県六ヶ所村に



トヨタフローリテック農場(青森県)

設立した時です。日本初の本格的な全自動植物栽培システムを備えた広大なガラス温室を建設し、トヨタが持つ世界水準の生産方式とハクサンの栽培技術で鉢花の大量生産を続けています。

2004年に(株)ハクサンに社名変更し本社社屋を愛知県日進市に建設して移転しました。2006年にはハクサンヨーロッパ ApS を設立し、デンマークの事務所から欧州全体を統括しています。



旭農場(愛知県)



IFEX2008 出展ブース

ハクサンの企業コンセプトは世界各国の情報とビジネスチャンスを一早く把握して、信頼の高い種苗、園芸資材、園芸商品等を確実に届けることです。多様化するニーズと急速に進化し続ける花卉流通システムに、迅速で満足のいく対応ができることです。海外に拠点を持つハクサングループは国際的ビジネス活動を通じ、園芸流通のグローバル化に対応しています。

いま園芸店の店頭を飾っている多くの草花のラベルに、「PW」というマークが付いているのをご存知ですか。これは Proven Winners の頭文字に由来し、花と緑の新しいブランドで世界的なネットワークです。日本ではハクサンが中心になって、国際間の技術協力を通じて、育種家から生まれた新品種を厳しい基準を設けて生産から販売までを信頼できる花の

ブランドづくりを推進しています。

高臣社長は、一年間の半分以上を海外で過ごし、世界中の園芸業界の生産から販売までを知り尽くしているため、IPPS が求めている最もふさわしい人材です。園芸を通じて人の心の豊かさに貢献したいと努力している高臣社長の、ますますの活躍を期待しています。

(文／藤森忠雄)

株式会社ハクサン

〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割 321-1

TEL：0561-75-5777 (代) / FAX：0561-75-5776



スーパーチュニアビスタピンク



スーパーベルレッド

左上：スリランカ農場

左下：スーパーベルミニ寄せ植え

	役職	氏名	担当	会社・所属	会社・所属住所
1	会長	内田 恵介		グリーンクラフト	三重県亀山市
2	副会長	鉄村 琢哉		宮崎大学	宮崎県宮崎市
3	副会長	鈴木隆博	ホームページ	(株) 浜松花き	静岡県浜松市
4	事務・会計理事	南出 幹生		南出 (株)	三重県鈴鹿市
5	編集理事	富田 正徳		(株) アイエイアイ	静岡県静岡市
6	国際理事	仁藤 伸昌	BlackBook	近畿大学	和歌山県紀ノ川市
7	理事	大橋 広明	愛媛大会	愛媛大学農学部	愛媛県松山市
8	理事	佐藤 伸吾	滋賀大会	(株) 花街道	滋賀県栗東市
9	理事	藤森 忠雄	ニュースレター	(株) 赤塚植物園	三重県津市
10	理事	水谷 朱美	愛知大会	(株) ベルディ	愛知県豊橋市
11	監事	柴田 勝		(株) 王健	三重県鈴鹿市
12	国際理事代理	Peter F.Waugh		Carann	New Zealand
13	国際交流推進委員	大森 直樹	IPPS 活性化	(株) 山陽農園	岡山県赤磐市
14	年史編纂委員	武田 恭明		近江花学研究所	滋賀県草津市
15	理事代理	青山 兼人		兼弥産業 (株)	愛知県知多郡南知多町
16	理事代理	石井 克明		森林総合研究所 森林バイオ研究センター	茨城県つくば市
17	理事代理	遠藤 弘志	IPPS 活性化	揖斐川工業 (株)	岐阜県揖斐郡
18	理事代理	弦間 洋		筑波大学 大学院	茨城県つくば市
19	理事代理	速水 正弘	IPPS 活性化	静岡県西部農林事務所	静岡県浜松市
20	理事代理	平田 豊		東京農工大学	東京都府中市

編集後記

IPPS-Jの会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。
新年が皆様にとって素晴らしい年になりますようお願い申し上げます。

昨年12月上旬から、当社の希少植物温室内の「トックリキワタ」(徳利木綿)がピンクの大きな花を咲かせ始めました。原産地はブラジルやアルゼンチンだそうです。現地の人はこの樹の形から「ヨイドレノキ、ヨッパライノキ」などと呼んでいるそうです。日本では馴染みの薄い樹木ですが、沖縄では海洋博覧会の会場や植物園でこの花を見ることができるそうです。学名は *Chorisia speciosa* でパンヤ科コリシア属の落葉高木です。当社の温室には7年前に植栽しましたが、今年ほど沢山の蕾をつけた年はありませんでした。1月下旬ころまで花を見ることが出来るそうですので、興味のある方はお出掛けください。

昨年の10月に第15回茨城大会が開催されましたが、今年の6月には第16回滋賀大会が開催されます。琵琶湖周辺での大会との事、皆様ご期待ください。幹事の(株)花街道の佐藤様が現在準備に奮闘中です。既に日程も決定いたしましたので、予定表にご記入いただき、お誘いあわせの上、多数のご参加をお願いいたします。

前回の理事会で、このニュースレターをカラー印刷で発行することが許可されました。皆様から植物の素晴らしい写真を沢山頂きながら、白黒の写真ではどうしても、投稿者の気持ちが伝わらないと思っていました。理事の皆様にご理解いただきましたので、今年も会員の皆様の貴重な原稿を頂き、魅力あるニュースレターの編集に更に努力いたします。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

ニュースレター担当：藤森忠雄



トックリキワタの花